

第3回

「目標－指導－評価の一体化と単元構成」

東京都板橋区立赤塚第二中学校 主任教諭 中野英水

1 はじめに

この連載も今回で3回目となった。この間に新しい学習指導要領の解説も示され、新しい学習指導要領にもとづく授業のイメージも徐々に見えてきた。本稿では、新しい学習指導要領の示すものとパフォーマンス評価との関係を、目標－指導－評価の一体化の観点から考えつつ、パフォーマンス評価を実現するうえで重要な単元構成のあり方について九州地方の実践例を示しながら述べたいと思う。

2 新しい学習指導要領と目標－指導－評価

今回の学習指導要領の改訂では、育成をめざす資質・能力の三つの柱を受けて基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得を土台として、「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力・判断力・表現力」の育成、さらには主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成を実現する授業展開が求められている。このことは、社会科のめざす目標であり、これを実現する授業を日々工夫しなければならない。この実現には、単元の目標－指導－評価が連続性をもち、一体となって実施されることが重要となる(資料1)。とりわけ指導とさらなる目標をつなぐ評価の重要性は大きい。授業を実施したのちに、目標が果たして達成できたのか、教師の指

導は妥当だったのかを適切に評価することが、生徒の学習状況の客観的な把握と授業改善への道しるべとなる。教師は目標と指導だけに目を向けるのではなく、評価にも意識を注ぐ必要がある。目標や指導と一体化する評価を行ってこそ、新しい学習指導要領がめざす資質・能力を育てる授業が完成するものと考えている。

<目標>

- ・基礎的・基本的な「知識及び技能」の確実な習得
- ・「社会的な見方・考え方」を働かせた「思考力・判断力・表現力」の育成
- ・主権者として、持続可能な社会づくりに向かう社会参画意識の涵養やよりよい社会の実現を視野に課題を主体的に解決しようとする態度の育成

目標を実現する単元構成と1単元時間の授業を構想する

評価の分析から次のサイクルにつなげる
ことが重要

検証結果をもとにさらなる目標の設定や、単元構成、授業の工夫・改善をはかる

<指導>

- ・習得・活用・探究を効率よく配置した単元構成
- ・主体的・対話的で深い学びを実現する授業の工夫

生徒の学びと単元構成や授業の妥当性を検証する

<評価>

- ・パフォーマンス課題による総括的な評価の実施
- ・評価結果の分析による指導の評価と改善

(資料1 目標－指導－評価のサイクル概念図)

3 目標－指導－評価の一体化を意識した単元構成重視の実践例(九州地方)

今回の実践例は、九州地方である。帝国書院発行の教科書『社会科 中学生の地理』p.168～の記述に沿いながらも一部の順序を入れ替えて6時間構成とした。単元の目標と単元構

成は、以下の通り。

単元の目標

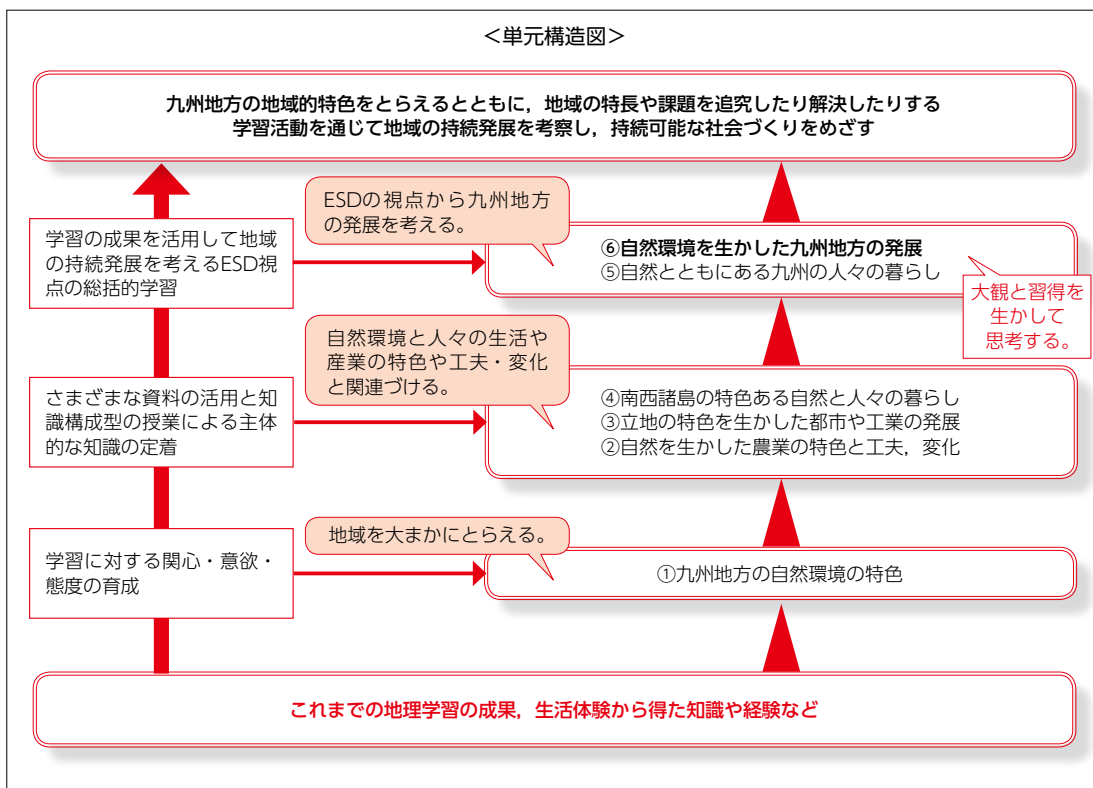
九州地方について地域の地形や気候などの自然環境を中核として、それを人々の生活や産業などと関連づけ、自然環境が地域の人々の生活や産業などと深い関係をもっていることや、地域の自然災害に応じた防災対策が大切であることについて考え、**地域的特色をとらえるとともに、地域の特長や課題を追究したり解決したりする学習活動を通じて地域の持続発展を考察し、持続可能な社会づくりをめざす態度を養う。**

単元構成（各授業の目標）

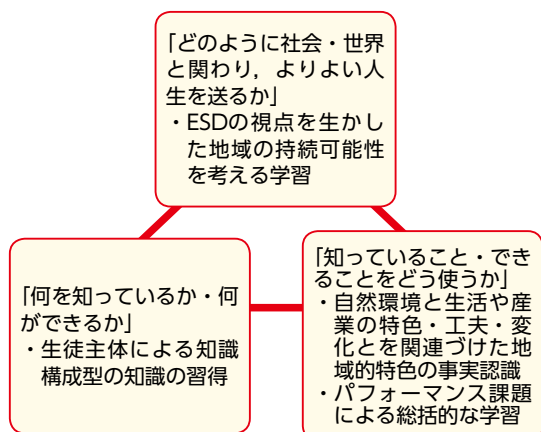
第1時	地形や気候などに着目して、九州地方の 自然環境の特色 をグループで調べ、 大観する 。
第2時	地域ごとに異なる自然環境に着目して、九州地方の 農業の特色や工夫、変化 を読み取り、 理解する 。
第3時	九州地方の立地に着目して中心都市である 福岡 や九州地方の 工業の特色 を読み取り、 理解する 。

第4時	自然環境や位置に着目して、 南西諸島の生活や産業の特色 を読み取り、 理解する 。
第5時	自然環境の特長や課題に着目して、九州地方の人々の生活の特色と関連づけて 地域の人々の生活の実態や努力 を読み取り、 自然災害に応じた防災対策 を考える。
第6時	これまでの学習の成果を生かして、 九州地方の地域的特色を自分の言葉で表現 し、地域の特長や課題を追究したり解決したりする学習活動を通じて 地域の持続可能性 を考える。

単元の目標として地域的特色の理解と地域の持続発展の考察、持続可能な社会づくりをめざす態度の育成を設定したのは、今回の学習指導要領改訂において育成をめざす資質・能力の三つの柱を意識したことによる。この目標を実現する単元構成として、帝国書院発行の『中学校社会のしおり』2016年度2学期号p.28掲載の学習プロセス概念図にもとづき大観→習得→思考→表現→態度化を連続的に配置した構成とした。



一つ一つの授業が単体で構成されているのではなく、それらが有機的につながり合って大きな意味をもつものとなるよう配慮している。この点は新しい学習指導要領に示された育成すべき資質・能力の三つの柱「何を知っているか・何ができるか」「知っていること・できることをどう使うか」「どのように社会・世界と関わり、よりよい人生を送るか」と重なる。三つの柱と本単元での学習活動を重ねたものが以下の図(資料2)である。



〈資料2 育成すべき資質・能力の三つの柱と本単元の学習活動〉

このように習得－活用－探究のプロセスを単元の中に構成し、単元が一体となって目標の実現に向かう学習を行うことが望ましい。そして、この単元の目標の達成具合をはかるためのパフォーマンス評価を最終時に実施し、生徒の目標達成具合を総括的に評価すると同時に、指導の妥当性を客観的に分析して、授業改善につなげるのである。また、各授業の目標の設定に際しては、「地理的な見方・考え方」を働かせられるよう、着目すべき点を示した。これらの視点に着目することにより、社会的事象を地理的な事象として見出したり、社会に見られる課題を「地理的な課題」として考察したりすることができる。

4 目標を実現する総括的な評価

ここで、本単元の第6時を紹介する。本時は、

前時までに学習してきたことを存分に活用して九州地方の地域的特色を自分の言葉で表現するとともに、九州地方の特長や課題を追究する学習活動を通じて地域の持続発展を考えるということを目標として設定した。また、パフォーマンス課題と評価の手法を用いることで、生徒が主体的な活動を通じて目標に対して意欲的に迫れるよう工夫した。

第6時の学習計画(生徒の学習活動)

導入	<ul style="list-style-type: none"> ・本時の目標を確認する。 ・九州地方の学習で、どのようなことを学んだのかを振り返る。 ・本時の課題設定を確認する。
展開①	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題①を実施する。 ・九州地方の地域的特色を、グループごとに表現して、ホワイトボードに記入する(掲示発表)。
展開②	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題②を実施する。 ・目玉企画をホワイトボードに記入する。 ・完成したホワイトボードを持って1班から順に発表する。 ・良かったと思うグループを1つ選び、投票する。
まとめ	<ul style="list-style-type: none"> ・パフォーマンス課題③を確認する。 ・研修報告書の内容とルーブリックを確認し、報告書をまとめる(自宅で作成して提出)。

本時の課題設定とパフォーマンス課題

本時の課題設定

(仮想) あなたは新人ツアーコンダクターです。あなたは九州地方を例題として新人研修を受けることとなり、1週間、九州地方の自然環境や人々の生活や産業について現地視察をしてきました。そして今日、研修のまとめとなる最終研修会に参加しています。

【パフォーマンス課題①】

(仮想) 最終研修会には他の新人ツアーコンダクターとグループをつくって行われます。同じグループになった新人ツアーコンダクターと協力して課題を考えていきます。最初の課題は、九州地方の地域的特色を表現する課題です。これまでの現地視察でわかったことをもとに、「九州地方はどのようなところか」をほかの新人ツアーコンダクターと相談して、簡単な文章で表現しましょう。

【パフォーマンス課題②】

(仮想) 次の課題は実際に2泊3日の九州地方巡

りツアーの企画を提案します。2泊3日の九州地方巡りツアーの2日目にこのツアーの目玉企画を実施することが役員会で決まっています。九州地方の自然環境や人々の生活や産業の特長や工夫を存分に活かし、地域の発展にもつながる目玉企画を考えましょう。

【パフォーマンス課題③】

(仮想) 長かった新人研修も終わり、あなたは自宅に戻りました。そして最後の課題に取り組みます。最後の課題は研修報告書の作成と提出です。これまでの研修や最終研修会を振り返り、別紙の研修報告書に記入して、役員会が示す期日までに提出してください。なお、この研修報告書の内容は役員会で審査し、あなたの評価の資料となりますので、がんばって取り組んでください。

研修報告書の内容

①あなたが研修を通して九州地方の地域的特色をとらえているかをはかる課題です。

これまでの研修や最終研修会を振り返り、あなたが考える九州地方の地域的特色を、あなたの言葉で書いてください。

②あなたの持続可能な社会づくりに関する思考力をはかる課題です。

あなたが考えた九州地方の地域的特色を生かし、九州地方の特長の伸長や課題の解決を通して九州地方がより良い地域になるための具体的なアイデアを、自分の言葉で書きなさい。今回のアイデアは観光以外の面に着目してもかまいません。

東京などの本州への日本観光の中継地点や、気軽に日本製品を買うことができる場所として発展できると思う。本州に行く途中に九州観光を加えることで、少ない費用で日本を広く楽しめるツアーを企画すると良いと思う。そして九州地方は、東京との距離が遠いがアジアには近い。この特色を生かして現在生産されている自動車やICを使った電気製品をアジア向けに生産すれば地域がさらに発展すると考えた。(一部省略)

この解答を分析すると、生徒が、九州地方は東京からは遠いがアジア諸国にはより近いという位置、立地の特色を的確にとらえていることが読み取れる。さらにこの地域的特色を生かして、アジア人観光客をねらった日本観光の中継地点にする、東京からは遠いがアジアに近いので、アジア貿易の拠点にするという地域の持続発展をめざす発想ができたことがわかる。

このように、目標－指導－評価の一体化を意識しながら学習したことを総括的に発揮させる単元構成重視の授業を展開し、パフォーマンス評価で締めくくすることで単元や授業の目標の達成を実現することができるのである。

パフォーマンス課題③のルーブリック

A	B評価をすべて満たしつつ、3つの評価項目のうち、1点以上でとくに優れたところがあるものや、全体的に優れていると判断されるもの。
B	以下の3点を満たす企画であること。 ①これまでの現地視察(学習)や最終研修会の成果を生かし、自然環境や人々の生活や産業など九州地方の地域的特色を盛り込んだものとなっている。(これまでの学習の活用) ②具体的でオリジナリティーのあるものとなっている。(独創性) ③地域の発展につながるものである。(持続可能性)
C	B評価の評価項目について、とくに不十分と判断されるものが含まれていたり、全体的に不十分であると判断されるもの。

生徒の解答例(研修報告書②:A評価の例)

九州地方は、アジアに近いという特色がある。そのためアジアからの観光客が多いことを生かし、

5 おわりに

これまで3回にわたって論じてきたが、新しい学習指導要領がめざす資質・能力の三つの柱を実現するものこそ、パフォーマンス評価ではないかと強く感じている。単なる知識の習得ではなく、生きて働く知識や技能を習得させ、それを活用して未知の状況にも対応できる思考力・判断力・表現力を養い、学びを自分や社会の発展のために生かそうとする態度の育成をめざす学習を評価するものとして、もはやペーパーテストだけでは不十分なのである。パフォーマンス評価を上手に活用し、新しい学習指導要領のねらいである資質・能力の育成をめざす授業がさかんに行われることを望みつつ、この連載を閉じたいと思う。